

### ●ヒトロ・パッコ

本来は凶悪犯罪捜査 東京工科大学の定期演奏会だったが、素直は「ヒトロ・パッコ、テノール・リサイタル」になった。

この時期にパッコは新国立劇場の《ワグネル》にテノールソロを出演中だったが、この演奏会の数日前に声を傷め、オペラ本番中に途中降板のアクシデントがあった事実だった。だからこの日は声もいまいかを慮っていたのだが、完全復帰とまではいかなかったとしても、テノールの輝きと力はかなり戻ったものでもあり、間に序曲、間奏曲などを挟みつつアリア、カンツォーネなどをふんだんに聞かされた。先のアクシデントについてはいまはよく自身でコメントし、でも今日は大賛好調だしステージに及んだのもな感度アップに繋がった。が、当初はパッコも少々不安だったのだろう、「1、2曲は歌の喉が透きかぬ。しかし声が通れば演習日演「トスティーニキアール」コロト《ホルタ》麗しうきうき、《ワグネル》女性の歌」など色々な書評回になった。返答で「川の流れるまじり」をイタリア語で歌ったのも好まじい。(6月22日・東京芸術劇場)